

## 【部会・分科会活動報告】 2017年11,12月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul> <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カビ分析のスタンダードプロトコル作成に関して 10/24 に第4回会議を実施。糸状菌 (<i>Aspergillus sect. Nigri</i>) の MALDI-TOF MS 解析の状況を共有。 第5回は 2/20 または 27 に実施予定。</li> </ul> <p>(3) <u>チルド勉強会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回勉強会 (3~4月予定) に向け、英国チルド食品協会資料等を収集中。</li> </ul> <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ完了</li> </ul> <p>(5) <u>NGS プロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ILSI Europe との取組も大詰めとなり、概ねガイダンス文書の作成が終了した。これから編集と投稿先の選定に入る。</li> </ul> <p>2. 2017年度第4回部会全体会議を実施 (12/15)</p> <p>3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウムを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題名: HACCP を支える微生物検査とその最新技術</li> <li>・ 演者: ①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、⑤東京海洋大学教授 木村先生</li> <li>・ 日時: 12月15日 (金) 10:30-17:10</li> <li>・ 場所: 東京大学 弥生講堂一条ホール</li> <li>・ 参加者: 約 200 名</li> <li>・ 詳細は、「イルシー」誌に掲載予定</li> </ul>
	食品リスク研究部会	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12/22 に開催された ILSI Japan 理事会において、ILSI Japan として食品分野の動物実験代替を推進していくことが確認された。</li> <li>・ 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) : ①ILSI Europe の主催する 2018年9月の EUROTOX のシンポジウム (食品規制で求められる動物実験) 参加に向け、国衛研小島先生とスケジュールおよび役割分担を確認した。②「構造未知で微量の不純物の安全性評価をどうするか (仮)」のテーマ化を検討することとなった。③HESS (リードアクロス) 勉強会について、NITE (代々木上原) での講習会を検討することとなった。</li> <li>・ 食品リスク評価課題解決 (WG3) : ①高齢者を考慮した食品の安全性評価に関わる課題について議論、整理を行った。②GEMS FOOD データベースの概略が紹介され、どのような活用方法があるか議論、今後、国衛研や健康栄養研の有識者をお招きするなどの意見があった。</li> </ul> <p>2. 勉強会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内閣府食品安全委員会事務局評価技術企画推進室長の橘薫子先生をお招きし、「新たな時代に対応した食品リスク評価技術の検討」と題して勉強会を行った。</li> </ul>

		今後活用が見込まれる新たな評価方法について現状と課題を整理し、提言を行う「評価技術企画ワーキンググループ」の活動が紹介された。(開催 11/30、参加者 24 名)
	香料研究部会	
	バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2017 年度 第 6 回目会議を 12 月 15 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 36 号の勉強会。 ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) ERA 報告書 集約版準備状況報告 (Ad-hoc team) 過去の当研究会に関わる活動の紙媒体プログラムを、電子化し保管していくことを決定。</p> <p>(3) GM 微生物食品について ・ 進捗報告なし。</p> <p>(4) GM 作物について ・ 遺伝子組換え作物の生物多様性影響に関する考察についての論文を最終化し、投稿した。今後、英訳を作成し、論文掲載元の下承が得られたら英訳を ILSI のホームページに掲載する予定。 ・ 来年予定されている ERA に関する勉強会及びワークショップの準備状況が報告された。 ・ 第 14 回 ISBGMO の参加報告については、「イルシー」誌 (No 132) に掲載された。 ・ 7 月に開催したゲノム編集ワークショップの報告書は最終化され、2018 年 1 月発行の「イルシー」誌に掲載予定。アンケート結果については HP に掲載する。</p> <p>(5) 2017 年活動のまとめ及び 2018 年活動計画について ・ ERA 勉強会等、6 つのプロジェクトについて確認され、12 月 27 日部会長会議で報告。</p> <p>2. ERA プロジェクト調査報告の発行 ・ 第 35 号および第 16～30 号の集約版を 12 月に発行。 ・ 見直された送付リストを使用。</p> <p>3. 「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」を 12 月 15 日に開催 (16:00-17:30、場所：アットビジネスセンター東京駅会議室、参加：70 名) ・ 食品安全委員会事務局評価第二課課長補佐内海氏、(財)化学物質評価研究機構 安全性評価技術研究所 研究第一部 斎藤氏を招聘。 2017 年 3 月に食品安全委員会より発行された「次世代シーケンサーの活用状況等に関する調査」報告書について、調査結果および NGS を活用する際の留意点の認識を深めることを目的とし、活用状況等に関する調査、調査報告書の背景およびその内容を紹介いただいた。</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>2017 年度 第 5 回 部会を開催し情報共有した (12 月 4 日)。</p> <p>1. 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』について ・ テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 —基礎研究から応用研究まで—」 ・ 開催日：2018 年 7 月 26 日 (木) (終日) ・ 場所：東京大学弥生講堂・一条ホール ・ プログラム案の最終バージョンについて：部会参加者で確認された。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイエンスシンポジウムの参加費について：部会参加者で確認された。</li> <li>・参加者増員のためのプロモーションについて：参加者増員のため、本シンポジウムの聴講が日本臨床栄養協会の「NR・サプリメントアドバイザー」、日本栄養士会の「生涯学習制度」、日本スポーツ栄養学会の「公認スポーツ栄養士」等の資格更新の研修単位として付与できるようにすることが提案された。</li> </ul> <p>2. 2018年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記1のシンポジウムのプロモーションのため、日本臨床栄養協会、日本栄養士会等の研修単位制度の手続き等について情報収集することにした。</li> </ul> <p>3. 2019年開催予定の「栄養とエイジング」国際会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「栄養とエイジング」国際会議のプログラム委員会に、栄養研究部会から2名（花王：三井、森永乳業：篠田）が委員として参加することが提案された。</li> </ul>
	GRプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回多施設試験意見交換会（11/21、於 ILSI Japan 会議室）</li> <li>・第3回多施設試験追試</li> </ul>
	茶類研究部会・茶情報分科会	
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	・第Ⅲ期寄付講座（2013年12月開始、5年間）研究進行中。
健康な食事研究会	ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<p>第3回会合（11/6） ILSI 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木先生による食事摂取基準（2015）のレクチャーとBDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）実施</li> <li>・「健康な食事」とは個々人の健康課題を解決するテーラーメイドな食事を指す</li> </ul> <p>第4回会合（12/4） 東京大学佐々木研究室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取基準（2015）の課題の共有</li> <li>・BDHQ結果共有と理解促進（WG1活動の有用なツール）</li> </ul> <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回会合（2018/1/12） 佐々木研究室 日本食の論文調査から「Japanese food」を読み解く（併せて、論文評価手法を学ぶ）</li> <li>・BDHQ活用実習と食事観察調査実施のための基礎情報収集</li> </ul>
	ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界（外食・中食・給食）情報ラウンドテーブル（9月、10月）のまとめを実施（12月中）</li> <li>・インタビュー／ヒアリング候補及び聞き取り項目案の策定</li> <li>・団体・企業への調査のための事前研究、生活者の実態把握（文献）</li> </ul>
	ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<p>活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康経営における取組状況の実情調査</li> <li>・健康経営意識の高い企業検索とヒアリングの実施</li> </ul>
	研究会全体	<p>○ 研究会目標の再確認</p> <p>研究会全体 日本人の「健康な食事」の概念を把握し、「健康な食事」を実現するために必要な研究や施策に関する提言をし、国民の健康に貢献する。</p>

		<p>WG1 「健康な食事」 概念提案 日本人の健康な食事関連論文のレビュー BDHQ/食事摂取基準を活用した食事観察調査で、個別化された「健康な食事」を研究</p> <p>WG2/WG3 実証に基づく、実現性のある「健康な食事」の提言</p> <p>WG2 外食・中食・給食の実態調査をもとに、これらの業界の「健康な食事」についての考え方の把握と「健康な食事」の実現に必要な研究や施策に関する業界要望のまとめ</p> <p>WG3 食の視点から、健康経営の現場の目標と実態の乖離を埋める視点・アプローチを開発</p> <p>○ 全体会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回全体会議 11月6日 WG1の新たな取組について安川理事長から説明。 「誰でもが自分にふさわしい食事(食べ物)を選べる社会システムの構築」 多面的な意見が提示され、合意形成できず。 12月1日: WGリーダー会議開催 WG1: 佐々木先生、WG2: 坂田先生、WG3: 桑田先生</li> <li>・ 第4回全体会議 12月22日 研究会目標の再確認(上記)</li> </ul> <p>○ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会活動報告 2018年2月19日</li> <li>・ 日本財団助成申請の結果判明 2018年3月</li> <li>・ WG活動の継続</li> </ul>
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>11/1 第76回日本公衆衛生学会総会(鹿児島)で発表。演題「介護予防事業における食品摂取頻度スコアの妥当性—食品摂取の多様性得点との比較—」</p> <p>11/1, 15 すみだテイクテン教室(すみだ女性センター)</p> <p>11/2, 9 すみだテイクテン教室(墨田総合体育館)</p> <p>11/13 墨田区介護予防サポーター養成講座(墨田区役所)</p> <p>11/14 江戸川人生大学 介護・健康学科1年次 講義(江戸川人生大学)</p> <p>11/14, 28 すみだテイクテン教室(スポーツプラザ梅若)</p> <p>11/24~25 石垣プロジェクト(石垣島の資源を活用した未病・予防ツーリズム開発事業) 石垣市事前実地調査(石垣市)</p> <p>11/29 テイクテン自主グループ交流会 調理実習(墨田女性センター)</p> <p>11/29~12/2 石垣プロジェクト実施(石垣市)</p> <p>12/5 震災被災地支援: いしのまきテイクテン(石巻専修大学, 南堺第四団地集会所)</p> <p>12/12, 26 すみだテイクテン教室(スポーツプラザ梅若)</p> <p>12/13 すみだテイクテン教室(すみだ女性センター)</p> <p>12/14 すみだテイクテン教室(墨田総合体育館)</p>
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	<p>11/1~3 地域ヘルスワーカーを対象とした研修 ①紙芝居式教材を用いたコミュニケーション能力向上研修 ②料理教室開催に関する研修(省・区サポートチーム主催, 25名参加, ハナム省, ベトナム)</p> <p>11/19~20 安全な水及び栄養に関する情報提供(ハナム省, ベトナム)</p>

	11/20～21 省担当者による村の活動視察（ハナム省，ベトナム） 12/18～19 省担当者による村の活動視察（ハナム省，ベトナム） 12/19～20 安全な水及び栄養に関する情報提供（ハナム省，ベトナム）
Project IDEA （Iron Deficiency Elimination Action）	11/28 栄養改善事業推進プラットフォーム（NJPPP）主催セミナー「持続可能な開発目標（SDGs）に対応した栄養改善ビジネスの展開に向けて」に参加（企業、大学、研究機関、NGO、国連機関等から約65名参加，虎ノ門ヒルズ）
CHP 全体	特になし
国際協力委員会	<b>部会開催：11月14日(火)</b> <b>情報共有：</b> 事務局長よりイギリスのNPO法人IFIS（International Food Information Service）と面談した結果の情報共有があった。IFISはFood science and health regulation databaseを提供し契約ベースで会員が法規を検索・ダウンロードできる仕組みを持つ。 <b>議題：</b> 規制調査結果の情報更新方法について。 各支部へ情報更新を依頼する前に、まずは委員で担当国を分担し、年内に各国報告書のハイパーリンク先の状況をチェックし、再度リンク先の内容と、英語か現地語かの別も調べ、現在の報告書がどの程度Out of dateになっているかを把握することとした。 次回2月に予定している部会で、何ができそうかを議論して今後の方針を決める予定である。
情報委員会	1. 委員会開催2回（11, 12月） 2. ホームページ ・ 日常業務としての更新（随時） 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 26巻1号（通巻98号）：編集（11/10刊行） ・ 26巻2号（通巻99号）：監修、編集（2/10刊行予定） ・ 11/29 編集委員会開催（通巻100号の採択論文・翻訳者候補決定）
編集部会	・ 「イルシー」誌133号原稿査読・編集

## 【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	第5回理事会が平成29年12月22日（金）16時から開催された。 I. 決議事項 議案：今年度収支見込最終案、来年度収支予算最終案 今年度収支見込が連結ベースで損失になるが、その原因がCHPの収入面でJICAへの応募による助成金が獲得できなかったことに起因すると説明。さらに来年度の収支について、東大寄付講座終了に伴う収入の減少、各研究会・部会活動の活発化による費用の増加、CHPの収入面の低迷が避けられず、連結ベースで損失となることについても説明。理事長より今後収入を増やすために、プロジェク
-----	--

	<p>ト基金連絡会の当初の参加企業や行政に資金拠出の働きかけを実施すると発言があった。全員一致で原案が承認された。</p> <p>II. 報告／討議事項</p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>1) 「健康な食事研究会」進捗報告 3つのワーキンググループに分かれ、これまで研究会を4回実施した。2/19の支部総会終了後の午後に、状況報告と討論会を実施予定。</p> <p>2) 寄付講座の今後について この1年間、議論・検討を続行中。15年間実施した東大寄付講座は総括をする予定。新寄付講座として、弘前大学 COI の健康ビッグデータと人工知能技術の組み合わせによって、個人の未来の健康状態を予測し、病気・老化を予防し、健康をサポートするシステムを開発する寄付講座を検討中。</p> <p>3) 動物実験代替タスクフォース 食品分野における動物実験代替のプロジェクトが、ILSI Europe で始まり、アジア担当として ILSI Japan に協力要請があり、食品リスク部会が受けることになった。国立衛生研の小島先生に指導を仰ぎながら、第1ステップとして、動物実験が関与する関連法規の調査とまとめを行う。期待される効果として、EU の規制リスクを回避あるいは最小化できる有用な手段を獲得できる、有益な動物非使用技術を獲得できることで研究開発の効率化・迅速化が図れるがある。</p> <p>4) 研究会・研究部会への活動支援の審査結果報告 11/20 に会長、理事長、桑田副理事長、宮澤理事に審査いただいた結果、支援要請の4部会とも申請通り承認された。</p> <p>5) 「栄養とエイジング」国際会議の企画概要案・企画委員会案 総合テーマ：食事と運動による健康寿命の延伸（仮題） 構成：1部—健康な食事、2部—栄養科学と運動科学の融合 日程：2019/10/1～2 会場：東大農学部 弥生講堂一条ホール 企画委員長—宮澤理事、健康な食事の企画委員候補者 10 名、 「栄養と運動」企画委員候補者 宮地先生を筆頭に 5.6 名程度</p> <p>2. 2018～2019 年役員改選 木村会長が次回の総会で退任、他は重任となる。</p> <p>3. 本部総会 日程：1/19～24、場所：英領 バミューダ ポイントは、「今回のスローガン—社会に貢献する科学」、「ILSI ガバナンス改革」、全支部から公募の「科学セッション」。 ポスターセッションは、「健康な食事研究会」の方針・進捗と東京農大の煙山紀子先生の研究紹介。 科学セッションでは、日本支部として「MALDI - TOF - MS プロジェクト」を発表。 その他、アジア支部ミーティングが開催される。</p>
事務局	特になし